



令和5年9月28日発行
第3号
北海道高等聾学校進路指導部

～第一回卒業生体験講話を行いました～

9月15日（金）6校時に卒業生体験講話を行いました。今年度の第一回目の講師として令和元年度に本校産業技術科を卒業された服部倅輝さん（専門学校北海道自動車整備大学校4年在学中）を迎え、聴覚障がいのあるご自身の経験談や高校在学時に学習しておくことなど、様々なアドバイスをいただきました。講話の中で、自分自身の趣味ややりたいことを進路に関連させるだけではなく、コミュニケーションや情報保障の問題、学費の問題なども合わせて検討することが重要である、などこれから進路を決める、または目指す本校生徒・学生にとって非常に貴重な内容となりました。（文責：菊池）

<生徒のアンケートより>

- ・仲間に聞くことや、相談することが大切だということが分かりました。高校時代から授業の内容の情報を一つ一つ取り入れていくことが、今後に役立つことを聞いたので、もっといろいろなことに興味を持てるようになります。
- ・気分が落ち込んでいるときに、友達と遊んだり、趣味でストレスを発散したりすることは自分も行っているので、今後も続けていきたいと思います。積極的に行動していくことを今後も意識していきたいと思います。
- ・自分のこと（ろう者であること）を相手に伝えることが大切だという意識を持って行動する必要があると思いました。



☆進路指導部長からのメッセージ☆

3学年と専攻科2年の皆さんへ…今日、今、この瞬間、最善の努力を尽くす！そうすれば結果は自ずとついてくる！

2学年の皆さんへ…見学旅行で世の中を「よく」見てきてください。何を得てくるかは自分次第！

専攻科1年の皆さんへ…実は進路決定まで残り一年足らず。妥協せずにより高いものを目指して！

1学年の皆さんへ…10月16日から就業体験がありますね。本当は皆さんが自分でお金を払ってでも

体験すべき経験です。謙虚に、かつ貪欲に学んでください！

～1・2学年社会見学を実施しました～

9月13日水曜日、1・2学年合同で社会見学に行きまして参りました。

社会見学の目的を、『見学先の業務内容、仕事の流れなどを見て学ぶことにより、就労の社会的役割等を理解し、自身の進路決定に役立てる。』と定め、「社会福祉法人北海道リハビリーのリハビリー・おおぞら」様(北広島市)と「井原水産株式会社」様(小樽市)を訪問させていただきました。両社ともお忙しい中、会社の概要や解説、質疑応答、製品作り体験など貴重な学習の機会を数多く提供していただきました。また、両社ともに本校の卒業生が働いており、特に井原水産では昨年度卒業した先輩からお話を聞く機会も設けていただけました。

リハビリー・おおぞらでは、福祉的就労の業務として、取引先である道内約200の病院・施設の寝具や看護師の白衣のクリーニング作業と、アウトドア関連製品制作を行っており、その様子を見学させていただきました。また、生徒からの質問「就労に必要なスキルを教えてください」のお答えとして、協調性を意識することや体力の向上が必要であると説明がありました。

井原水産株式会社は、塩数の子を主力製品としている昭和29年創業の会社であり、規格外の塩数の子を用いてカズチーやカズチープレツェルを製造しフードロスにも取り組んでいる数の子業界では有名な会社です。

塩数の子を大きさ・色ごとに選別する機械の様子や、職員が塩数の子の形や大きさを見極め、見栄え良く箱詰めをしている様子などを、間近で見学させていただきました。また、本校の卒業生からは、自分が苦手だと思う仕事にできるだけ積極的に取り組んでいること、周りの社員の方々の優しさに助けられて人見知りの自分が大きく変わってきたことなど社会人としての経験・体験について、そして1・2年生には将来に向けて目標や見通し、なりたい自分のイメージを持つことが大切であるなどのアドバイスを話していただきました。

見学後の事後学習では、見学や先輩の講話から自身の将来の働く姿と重ねて進路決定において大変参考になったことや、今後の学校生活での目標をしっかりと設定する大切さを学んだことなど、振り返りが聞かれました。短い時間での見学でしたが、生徒たちにとって様々なことを感じることで、大きな成長に繋がる社会見学となりました。今後の学校生活に活かしてほしいと思います。(文責:松島)

以下、2学年の生徒の反省から抜粋です。(一部編集させていただきましたので御了承ください)

- ・職員の方々から仕事のやりがいや働く姿を見ることで、自分の将来働くことのイメージを大きく膨らませることができた。
- ・卒業した先輩の講話を聞き、自分が今何をすべきなのか明確に絞ることができた。
- ・先輩の話を聞いて、わからないときは筆談など、コミュニケーションの取り方を学びました。
- ・コミュニケーションを高め、協調性を良くし、体力をつけて働くことが大切なスキルということを感じた。
- ・利用者や先輩が楽しそうに働いているのを見て、ハンディキャップがあっても周囲の人々の支援や本人の努力があれば労働ができるのだなと感じました。私も自分から周囲の人の理解を得られるようにコミュニケーションをとり、ハンディキャップを埋める努力をすることを目標にしたいです。

